

チアリーディング部 Berries

チーム名の「Berries(ベリーズ)」は、フルーツのベリーからとったもの。かわいらしい響きにちなんで、チームもかわいさをウリに活動しています。

発声や表情づくりも大事なポイント。コーチの指導のもと、お互いに意識しながら取り組みます。



難易度が高いものはコツを掴むまで一つ一つの動きを繰り返して練習。



練習中はもちろん、その後も一緒に過ごす時間が多いというメンバー。そこで信頼関係も一層強くなるとか。



2007年秋、「わいYチャレンジフェスタ」でパフォーマンスを披露するメンバー。

「悩んだり、落ち込んだりする時も、仲間と一緒にチアをやると自然と笑顔になり、元気が出てきます。こちらの楽しいと思う気持ちも、仲間にも見ている人にもどんどん伝わっていくのがチアの魅力なんです。」

観客をいかに魅了し、ひきつけられるかを競うチアリーディング。そのダイナミックなパフォーマンスから「見せるスポーツ」の一つとして国内では大学・高校を中心にチームが結成されています。平成17年に発足したばかりの長崎大学チアリーディング部では、現在9名の部員が練習に励んでいます。発足した当初は、唯一経験者であった部長を中心に、チアリーディングの教本やDVDを見ながら練習を重ねてきましたが、現在は外部コーチを招き、より本格的なダンスやスタンス(組み技)の練習にも取り組んでいます。部長の公文さん(教育学部3年)は、どんな時でもチアをやる時はそれに没頭するようにしているそうです。

昨年、地域のイベントに参加した時、初めてチアを見た観客の「チアアッてすごいね。とても楽しかったし元気をもらった。」というコメントにとても感動したというメンバー。「自分たちが心から楽しんで演技をやったからこそ感動が伝わったんだと、改めて感じたそうです。」

「長崎にはチアリーディングのチームが少なく、なじみも薄いので、これからは、チアの知名度向上を目標に、地域のイベントやテレビ出演、大会出場など活動の幅を広げていく予定です。」と公文さん。そんな彼女たちの現在の目標は、今年7月に行われる九州大会への出場です。自分たちの演技に自信をつけたいということで、練習では少しずつ難易度の高い技も取り入れています。もつと多くの人に勇気と感動を与えたいと、一致団結して練習に励むメンバーの姿は、いつもキラキラと輝いています。

信頼する仲間と創る輝きの舞台



メンバーのほとんどは、未経験者。運動は苦手だけど、楽しい事を見つけたいと考えている人を募集中!

長崎大学チアリーディング部「Berries」部長

公文 咲希さん(教育学部3年)

メンバーは全員、勉強と部活のメリハリができています。だからこそ、チアを心から楽しめるのかもしれませんが、勉強もチアも、お互いに刺激し合いながらいつも頑張っています。